

## 第2次菊川市総合計画策定にあたって ＜未来のきくがわ まちづくりワークショップ in2015＞

### 1 計画策定の背景・目的

菊川市では、平成19年度を初年度とし平成28年度を目標年次とする「第1次総合計画」において、「みどり 次世代～人と緑・産業が未来を育むまち～」を将来像に掲げ、その実現に向けてまちづくりを進めてきました。

本市が誕生して10年が経過するなか、人口減少や少子高齢化、自然災害による防災意識の高揚など本市を取り巻く状況は大きく変化しつつあります。

このような状況のなか、現行の「第1次菊川市総合計画」が平成28年度末をもって満了することから、本市を取り巻く社会環境・経済情勢・市民ニーズ等の変化に的確に対応するため、「第2次菊川市総合計画」を策定します。

### 2 計画の構成と期間

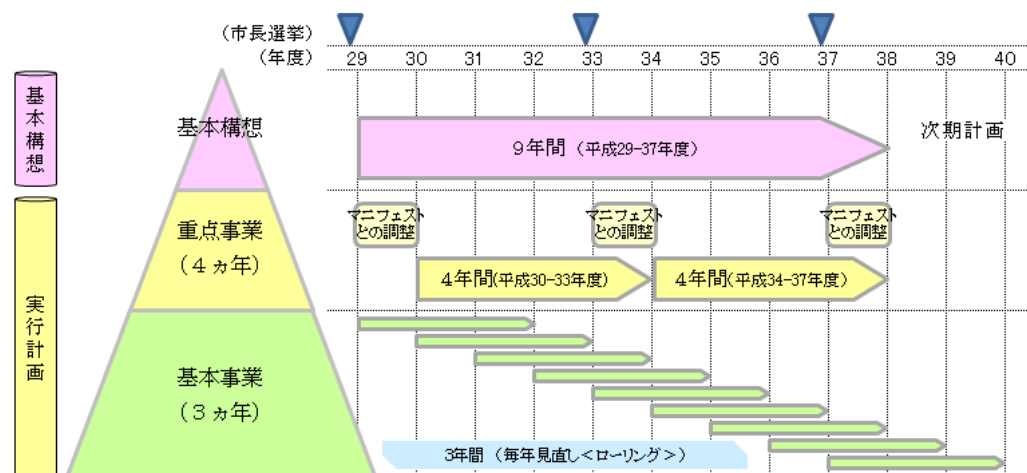
第2次総合計画は、平成37年度を展望し、「基本構想」及び「実行計画」により構成されます。

#### (1) 基本構想

市が目指す将来都市像・理念・使命など、まちづくりのビジョンを明確化、政策の基本目標（政策テーマ）を定め、その実現に向けた政策体系を示すものです。計画期間は平成29年度から平成37年度の9年間とします。

#### (2) 実行計画

基本構想に定めた将来都市像の実現、基本構想に基づく施策を戦略的に推進するため、主要な施策に基づく重点事業と基本事業の2種類を掲げ、計画期間内の具体的な事業内容を示す。重点事業の期間は4年間とし、基本事業の期間は3年間とします。



### 3 人口推計

菊川市の将来人口の推計については、国立社会保障・人口問題研究所が国勢調査に基づき推計し、次のとおりとなっています。

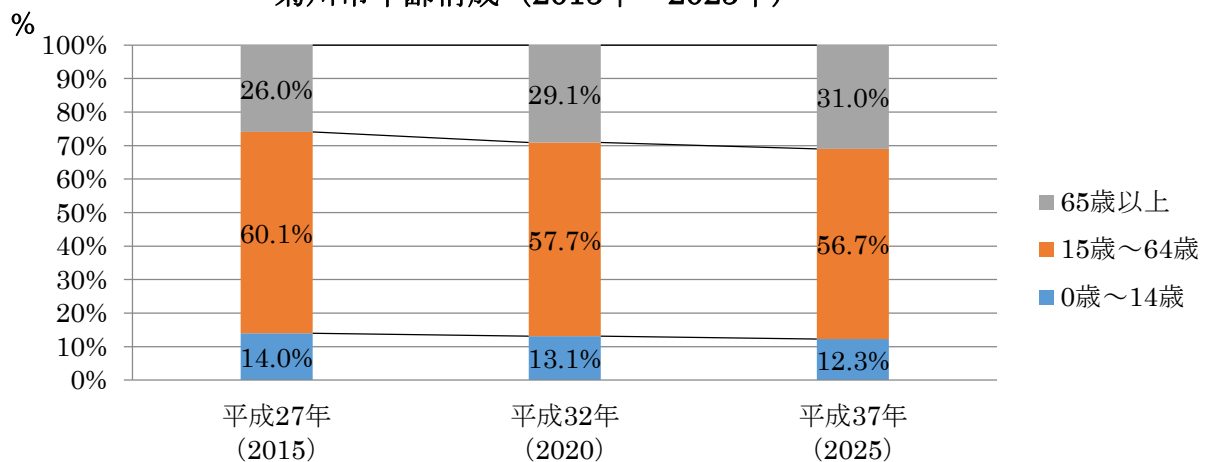
◆菊川市将来人口推計（国立社会保障・人口問題研究所）

平成 (西暦)	28年 (2016)	29年 (2017)	30年 (2018)	31年 (2019)	32年 (2020)	33年 (2021)	34年 (2022)	35年 (2023)	36年 (2024)	37年 (2025)
人口	46,107	45,913	45,719	45,525	45,331	45,090	44,849	44,607	44,366	44,125

菊川市の将来人口推計（国立社会保障・人口問題研究所）



菊川市年齢構成（2015年～2025年）



※社人研推計とは、国立社会保障・人口問題研究所が平成22年の国勢調査結果に基づいて行った、各自治体の将来人口及び人口構成の推計のことです。人口を推計する上での条件設定は以下の通りです。

- ・合計特殊出生率：2010年時点での出生率がほぼ横ばいで推移すると仮定。
- ・社会移動：2020年にかけて徐々に社会移動は減り、現状の半分の移動まで減少したらその値で横ばいだと仮定。

## 4 まちづくりの基本理念

### とも い 共に生きる 《共生と協働》

市民すべてが、地域の人や自然と共に生きるという意識を高め、顔のみえる関係を基本としながら、協調・協力して互いのため、地域のために働くことを重視します。

### みずか ひら 自らを拓く 《自立と交流》

自分たちのまちは自分たちで創るという自己責任を踏まえた考えのもとに、自立した都市をめざすこと、ならびに生涯学習や幅広い世界との交流により、自らについて、より豊かな考え方を拓くことを重視します。

### みらい あゆ 未来へ歩む 《継承と発展》

これまでに培った地域の歴史・文化・産業をふまえるとともに、新たな視点による発展を加え、未来に向かって一步一步確実に歩みをすすめることを重視します。

## 5 将来像（案）

### （案）みどり ときめき たしかな未来 菊川市

菊川市は、豊かな自然環境を持つ、鮮やかな緑に包まれた地域です。「みどり」は、自然・お茶・農産業・芽吹き（誕生）・若さ・活力・郷土・安全安心などが連想され、その一つひとつが、まちづくりに必要なキーワードでもあります。

この「みどり」を活かし、市の発展性、将来への希望、恋愛、結婚、生活など喜びや期待に心がおどるようなまちづくり目指します。

また、これからの菊川市の未来が、魅力があり、幸せな生活環境、「住んでよかった、住みたくなるまち」として、これからも未来へ繋げ、継承し、持続可能なまちを将来像とし、まちづくりを進めていきます。

この将来像は、第2次菊川市総合計画の計画期間である平成37年（西暦2025年）の「あるべき姿」として設定しまちづくりを進めていきます。

#### 「みどり」

自然・お茶・農産業・芽吹き（誕生）・若さ・活力・郷土・安全安心など、あふれる自然、大切にしたいふるさと、良好な環境をイメージした言葉で、合併時の新市将来構想や第1次菊川市総合計画からも継承するものになります。

#### 「ときめき」

これからの市の発展性、将来への希望、恋愛、結婚、人口増などをイメージしています。

#### 「たしかな未来」

菊川市をこれからも未来へ繋げ、継承し、持続していくことをイメージしています。

## 6 基本目標（案）

まちの将来像の実現に向けて、各分野で取り組むまちづくりの基本的な方向性を示すため、以下の5つの基本目標（案）を掲げます。

### 目標1 「子どもがいきいき育つまち」

- 「子育て」、「教育」環境の充実等による次世代の育成支援を強化していくことにより、「菊川」で子どもが生まれ、育ち、「菊川」に住み続けるまちとしていきます。

### 目標2 「健康で元気に暮らせるまち」

- 「菊川」で育まれてきた地域文化や、「住み良いまち」としての評価を維持しながら、市民誰もが健康で豊かに暮らせる環境づくりや、市民自らの健康づくり等への取り組みを支援していきます。

### 目標3 「活気があふれ地域の良さを伸ばすまち」

- 深蒸茶発祥地としての特徴、また、高速道路、鉄道の広域交通網との良好なアクセス性などの「菊川」ならではの資源や優位性を活かし、市内はもとより、市外にも情報を発信しながら、更なる「産業力」の維持・向上を図ります。

### 目標4 「快適で安心して暮らせるまち」

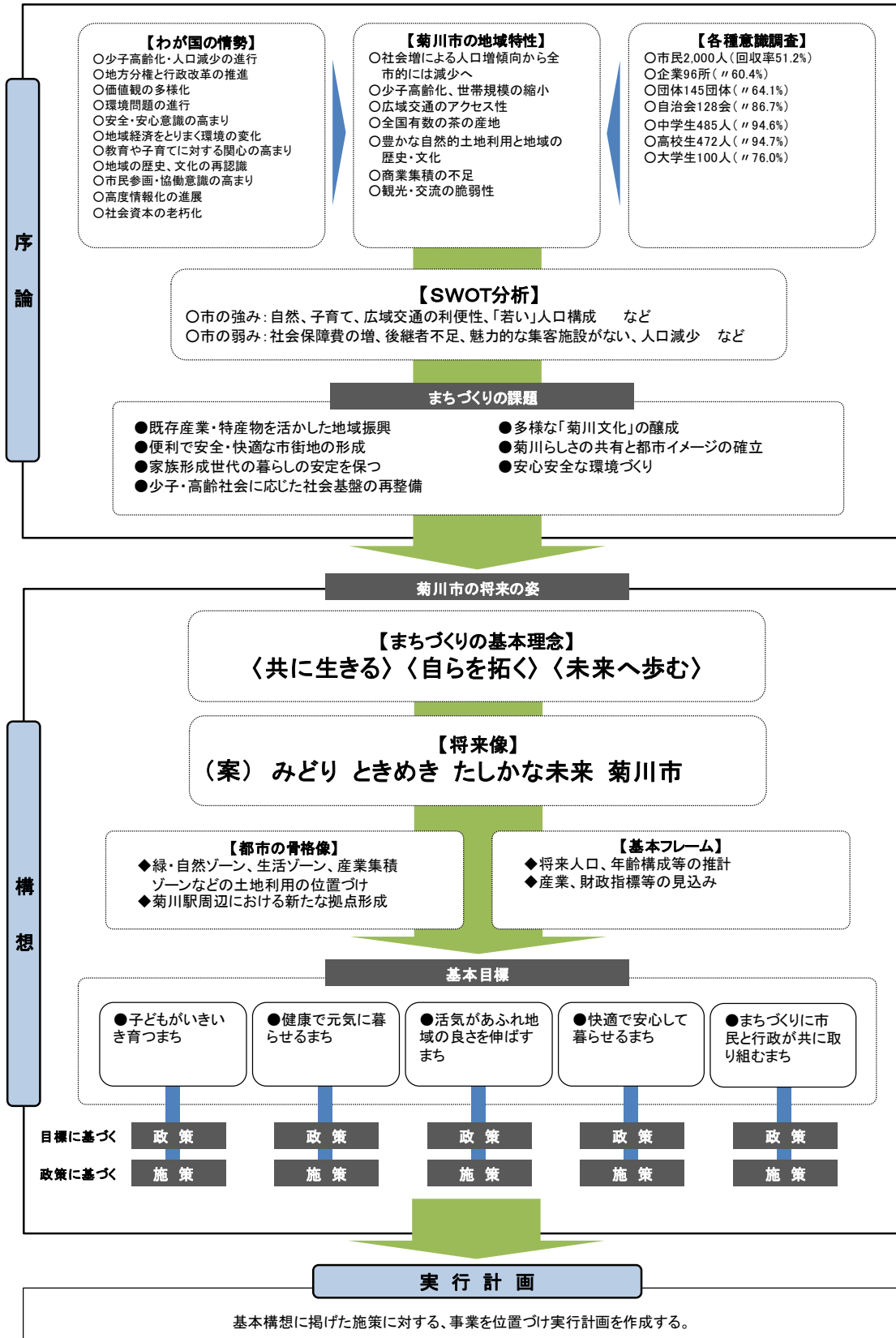
- 茶畑が広がる丘陵地や菊川などの河川を軸とした水と緑の自然の保全と鉄道駅周辺の機能充実や市内の公共交通網の利便性向上などにより、利便性の高い市街地整備のバランスのもと、市民の生活利便性の確保と、不安なく安定して暮らせる環境づくりを進めます。

### 目標5 「まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち」

- 「菊川」のまちづくりを進めるために、多様な主体が支え合い、共に考え、行動するまちにしていきます。

## 7 基本構想骨子（案）

### 第2次菊川市総合計画「基本構想」の骨子(案)



## 8 市民ワークショップの目的

現在まで、菊川市総合計画審議会や、庁内策定委員会等で、現状の分析や課題、将来像、基本目標を議論してきました。

今回開催するワークショップは、新しい総合計画の策定にあたり、市民の皆さんの主体的な参加により、話し合いを通じて、市民と行政が協働で取り組むべき、『これからの菊川のまちづくり』について検討し、具体的な提案をいただくための機会として設置しました。

菊川市の姿（良いところ、悪いところ）についてテーマを設けて再確認するとともに、未来を見据えたまちづくりの意見・提案をグループで話し合い、意見・提言集としてとりまとめていただきます。

※市民ワークショップでまとめた意見・提言集については、総合計画庁内策定部会（行政組織）で政策・施策を策定する中で、活用させていただきます。

資料「未来のきくがわ まちづくり ワorkshop in2015」へ